

産業厚生常任委員会所管事務調査報告書

第1 調査事項

市街地の活性化対策等について

第2 調査期日及び場所

平成22年10月21日 伊達商工会議所
平成22年10月22日 岩見沢商工会議所
平成22年11月30日 委員会室
平成23年 1月17日 士幌町商工会
平成23年 2月24日 委員会室

第3 参加者

委員長 加納 三 司
副委員長 加藤 宏 一
委員 清水 秀 雄 杉原 憲 司 秋間 紘 一
議長 佐古 準 一
事務局 議会事務局長 植田 廣 幸 総務係長 瀬口 豊 子

第4 調査の経過と概要

本町の商工業は長引く景気の低迷や事業主の後継者問題、高齢化など、経営環境は年々厳しさを増している。

また、消費者ニーズの多様化や近隣の郊外型大型店の影響により地元購買力は低下している。委員会は地域商工業の振興と商店街活性化対策の推進、助成金の支援状況を調査事項とし「市街地の活性化対策等について」その取組内容の現状と課題を整理し、振興策をどのように進めたらよいか調査、検討するため伊達商工会議所及び岩見沢商工会議所並びに士幌町商工会に赴き所管事務調査を実施することとした。

【伊達商工会議所】

(1)伊達市の概要

伊達市は平成18年3月に大滝村と市町村合併し人口は37,639人となり、合併以降ほぼ横ばいで推移し、平成22年4月は36,927人となっているが、年齢構成をみると少子高齢化社会が到来し、高齢化率は合併当時27.0%であったが平成22年4月には29.3%と増加し若年層が流出している。なお、中心市街地の状況は次の表のとおりとなっている。

商店数、従業員数等の推移

| 区分 | 商店数(店) | 従業員数(人) | 商品販売額(千円) | 1店あたり販売額(千円) |
|-------|--------|---------|------------|--------------|
| 平成9年 | 427 | 2,709 | 71,503,000 | 167,454 |
| 平成14年 | 429 | 3,018 | 61,220,000 | 142,704 |
| 平成16年 | 405 | 2,781 | 60,527,000 | 149,449 |
| 平成19年 | 398 | 2,831 | 50,711,470 | 127,416 |

(2)活性化対策事業に関する各種事業

伊達市は「伊達市中心市街地活性化基本計画」を策定し、これと連動し平成14年4月伊達商工会議所において「伊達市TMO構想(中小小売高度化事業構想)」を策定し、伊達市が認定を行い、商工会議所が認定構想推進事業者(TMO)として事業を実施している。

景気対策事業

市民の購買意欲を刺激し、他の地域への消費流通に歯止めをかけ、沈滞する経済の活性化対策として、建築業に付帯する業種を支援するため、工事受注の少ない4月から6月に住宅のリフォーム工事を施工時期とし、商工会議所が申請受付窓口となり集約を実施した結果、受注は順調に推移し短期間で事業の予定数量は限度となった。

この事業は平成22年度新規事業で制度の内容は工事契約額の10%を商品券で支給されるが、上限の助成額は100千円となっている。景気対策事業の特色としては、事前に登録された市内の会員施工業者に発注されることと、商品券で助成を受けた市民は商店街で商品を購入するため、お金は地域内を異業種間で循環することとなる。

中心市街地活性化推進事業

・TMO推進事業

伊達TMO構想に基づき、TMO(伊達商工会議所)が中心市街地の商業等の活性化のため実施する事業である。

・スマイルフェスタ事業

北海道からの補助実績は、平成20年度1,000千円、平成21年度900千円、平成22年度(最終年)600千円の補助金と伊達市、商店街等からなる助成で中心市街地の賑わい創出を図るため、中心市街地活性化対策のイベントを行うもので、各関係団体が実行委員会を組織し実施している。

ライフモビリティ事業(愛のりタクシー)

急速に高齢化が進む中で自動車を運転しない高齢者等にとって負担が少なく、安心して利用できる交通機関として、市が交通事業者との協議や生活動向調査、実証実験等を実施し平成18年11月から伊達商工会議所が事業主体となって運行を開始した。

ウェルシーフード構想推進事業

・軽トラ朝市開催事業

・地場産業活性化推進事業

・観光物産館整備事業

なお、平成22年度の商店街活性化対策事業は次のとおりである。

単位：千円

| 事業名 | 事業費 | 北海道 | 伊達市 | 商店街等 | 商工会議所 | 摘要 |
|----------|--------|-----|--------|------|--------|--------------------------|
| 景気対策 | 30,000 | | 19,000 | | 11,000 | GO!GO!チャンスセール リフォーム助成 |
| TMO | 2,150 | | 700 | 800 | 650 | ぐるっと市、他 |
| スマイルフェスタ | 1,400 | 600 | 440 | 160 | 200 | |
| 愛のりタクシー | 6,600 | | 4,250 | | 2,350 | |

商工業振興のため、伊達市と伊達商工会議所は高齢者対策や環境変化、消費者ニーズを踏まえながら、魅力あるまちづくりや景観に配慮した商店街の整備を図るため、様々な中心市街地活性化対策事業に取り組んでいる。

【岩見沢商工会議所の概要】

(1) 岩見沢市商店街の現状

岩見沢市は、平成 11 年 7 月に策定した中心市街地活性化基本計画を基に、駅周辺施設の整備や店舗活用事業に取り組んできた。しかし、平成 16 年以降郊外に大規模店舗が次々とオープンするなど、中心市街地は少子高齢化が進む社会の中で果たす役割は重要であることから、まちづくり三法の改正を受け、平成 18 年から新たに基本計画を作成し、平成 21 年 6 月に国の変更認定を受けた。

なお、中心市街地の概要は次のとおりである。

居住者人口の推移

単位：人

| 平成 21 年 | 平成 20 年 | 平成 19 年 | 平成 18 年 | 平成 17 年 | 平成 16 年 | 平成 15 年 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 4,657 | 4,768 | 4,740 | 4,939 | 4,995 | 4,996 | 5,039 |

商店数、従業員数の推移

| 区 分 | 商店数(店) | 従業員数(人) |
|---------|--------|---------|
| 平成 8 年 | 1,553 | 2,709 |
| 平成 13 年 | 1,385 | 3,018 |
| 平成 18 年 | 1,138 | 2,781 |

(2) 中心市街地における現状と整備計画について

住みたいと思う暮らし環境づくり

高齢者にとって安全・安心で便利性の高い暮らしが享受できる空間として、中心市街地にストックされている機能を生かしたまちづくりを進めるため、「まちなか居住の促進」、「安全・安心な暮らし環境づくり」、「豊かで潤いのある暮らし環境づくり」を促進する。

ふれあいと交流のある賑わいづくり

歴史や文化を活かしたまちづくりを進め、新たなふれあいや交流を育む場の整備、新たな地域文化を創出する主体との連携、誰もがまちを訪れて交流しやすい環境整備のため、「魅力ある軸と拠点づくり」、「交流促進と新たな地域文化の創造」、「行き来しやすい交通環境づくり」等ふれあいと交流のある賑わいづくりを進める。

地域産業の活力を生み出す環境づくり

IT 産業を主体として地域産業の活性化、雇用創出の取り組みを推進するため、「新たな産業振興」、「就業対策の推進」、「買物したくなる環境づくり」などの環境づくりを進める。

(3) 活性化対策事業に関する各種事業

まちなか住まいを促進する事業

- ・ 1-2 地区賃貸住宅整備事業（平成 17 年～平成 19 年）
- ・ 4-3 地区再開発事業（平成 19 年）
- ・ 岩見沢駅北土地区画整理事業

まちなか回遊を促進する事業

- ・ 有明連絡歩道、有明北盛通
- ・ 市道 3 条線
- ・ イベントホール・広場活用事業
- ・ 4・3 地区ポケットパーク設置事業

・ ぷらっとパーク活性化事業

まちなか雇用を促進する事業

- ・ ラルズ跡地活用事業
- ・ 新産業支援センター整備・運営事業

なお、平成 22 年度までの商店街活性化対策事業は次のとおりである。

単位：千円

| 事業名 | 事業費 | | | | |
|------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 平成 22 年 | 平成 21 年 | 平成 20 年 | 平成 19 年 | 平成 18 年 |
| 商店街活性化事業 | 2,780 | 853 | 910 | 1,000 | 5,842 |
| ぷらっとパーク活性化事業 | 375 | 181 | 5,235 | 10,000 | 10,653 |
| 岩見沢アートホリデイ | 900 | | 550 | | |
| 中心市街地コパ-ジ-ョン事業 | 20,660 | 5,150 | 5,000 | | |
| 岩見沢赤れんが夏祭り | 2,000 | | | | |
| K B 岩見沢賃貸住宅新築 | 2,940 | | | 7,190 | 4,157 |
| ハピ-レイホ-プロジェクト | 950 | | | | |
| 2010 デイコ祭り | 500 | | | | |
| 展覧会、アート教室開催事業 | 1,000 | 1,550 | | | |
| 薔薇香る癒しのまち岩見沢 | | 2,000 | 2,250 | 3,000 | 2,100 |
| プロジェクトクリスマス | | 1,000 | 1,000 | | |
| レンガ通り振興会 | | 1,580 | | | |
| とく得朝市事業 | | | 360 | | |
| 共通駐車券発行 | | | 420 | 420 | 840 |
| ポイントカード発行 | | | 1,130 | 3,450 | 7,294 |
| ギャラリー、ポケットパークの整備 | | | 3,000 | | |
| 景観整備事業(アーケード補修) | | | | 4,940 | 6,607 |
| 計 | 32,105 | 12,314 | 19,855 | 30,000 | 37,493 |

岩見沢市の中心市街地は、JR 岩見沢駅を玄関口として市民に親しまれ、約 130 年の歴史で道内では由仁駅に次ぐ古さをもつ駅舎であったが、平成 12 年 12 月に漏電による火災で焼失した。その後岩見沢市と JR 北海道は、全国初の試みとして一般公募型で複合駅舎デザインコンペにより建設費約 30 億を投じ、JR 岩見沢駅が約 6 億円、岩見沢市有明交流プラザが約 9 億円、有明連絡歩道等（南北自由通路、室内、屋外駐輪場）約 15 億円で、一般利用者に合わせた再開発事業が進められ平成 21 年全面開業した。

まちの顔として、話題性と先進的な質の高い設計アイディアは数々の受賞を受け(財)日本産業デザイン振興会からグットデザイン大賞（内閣総理大臣）を受賞した。

中心市街地活性化基本計画は課題も多く、平成 13 年にラルズが撤退しその跡地を平成 15 年に市が購入し、以降市街地の整備が始まった。

この他、昭和 63 年に再開発ビルを建設し大半を大型店の西友が店舗として営業していたが、平成 21 年に撤退したことにより「核店舗の誘致」及び「既存商店等に西友跡地への店舗移転」やラルズ跡地の整備等が当面の最優先課題となっている。

この様なことから、活性化に向けた取り組みとして「まちなか居住促進」、「地域内雇用の創出」、「居住環境の向上」などを計画目標に掲げ独自の環境づくりを進めている。

【土幌町商工会の概要】

(1) 土幌町商店街の現状

昭和 63 年 8 月に第 3 次商店街診断を実施、平成元年 6 月に商店街近代化推進協議会を設立し、その後、平成 5 年 6 月から平成 11 年 4 月まで商店街近代化事業として店舗工事を行った。さらに、平成 13 年 2 月には第 4 次商店街診断をして「土幌市街地活性化対策に関する基本調査」、平成 20 年 8 月に商工業振興対策検討委員会を設置し、農商工連携事業の検討を開始した。同時に地域資源を活用した商品及びサービスの開発調査事業、平成 21 年度は商工会等振興調査事業、農商工連携等人材育成事業、平成 22 年度「むらおこし事業等地

域活性化事業、食を核とした地域活性化支援事業」など、新しい事業分野の活性化対策事業として活力ある町づくり、豊かな町づくりに取り組んでいる。

なお、平成 22 年度まで商工会に対する町の商店街活性化対策事業関係の支援内容は、次のとおりである。

単位：千円

| 事業名 | 事業費 | | | | |
|------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 平成 22 年 | 平成 21 年 | 平成 20 年 | 平成 19 年 | 平成 18 年 |
| 商工会活動助成金 | 18,945 | 18,945 | 18,945 | 18,945 | 18,945 |
| 商店街協同組合助成金 | 1,215 | 1,215 | 1,215 | 1,455 | 1,215 |
| 商工業活性化推進事業 | 4,210 | 2,550 | 4,000 | 4,000 | 4,550 |
| 商品券発行事業 | 10,000 | 19,831 | | | |

商工業者の推移

単位：件

| 区分 | 小売業 | サービス業 | 製造業 | 建設業 | その他 | 合計 |
|---------|-----|-------|-----|-----|-----|-----|
| 平成 17 年 | 43 | 79 | 9 | 25 | 2 | 158 |
| 平成 18 年 | 37 | 81 | 8 | 27 | 2 | 155 |
| 平成 19 年 | 34 | 80 | 8 | 26 | 2 | 150 |
| 平成 20 年 | 31 | 91 | 8 | 24 | 3 | 157 |
| 平成 21 年 | 32 | 94 | 8 | 25 | 3 | 162 |

(2)活性化対策事業に関する各種事業

商工会は昭和 60 年より町内の賃貸住宅が少ないことから、地域事業者に対し経営改善普及事業指導業務の一環として、不動産事業への投資家の発掘を推進してきた。同時に空き家情報を無償で提供してきたが、平成 21 年に町の支援を受け単身者マンションを建設し宅地建物取引業の認可を得て、不動産業の実施による定住人口促進事業を開始した。

また、地域住民との協働の町づくりの推進と優しい地域社会の形成実現のため、町はふるさと雇用再生特別対策事業を商工会に委託し、高齢化世帯に対応した宅配サービスとして、こまわりのきく「べんりや」事業を行っている。

この他、地域活性化に関連する事業で農商工連携の取り組みは次のとおりである。

- ・地域資源を活用した農商工連携事業による講習会の実施
- ・商工会等振興調査事業（北海道 小規模補助金）
- ・農商工連携等人材育成事業（全国連 中小企業経営支援等対策費補助金）
- ・むらおこし事業等地域活性化事業（北海道 小規模補助金）
- ・食を核とした地域活性化支援事業（農林水産省）

時代の変化に対応し消費者ニーズを踏まえ、地域資源の有効活用を基本に新商品の開発など種々の補助事業を導入し、魅力ある市街地の活性化対策に取り組んでおり、今後商工会が各事業を計画・立案し実施に向け推進を図ることとしている。

第 5 所 感

伊達市、岩見沢市に於いても郊外に大型店舗が進出したことにより、中心市街地は空洞化し購買力が大きく低下している。この状況は本町も隣接町に郊外型ショッピングセンターが次々とオープンし商工業を取り巻く環境は大きく変化し、地元購買力の低下など同様の課題と難問に直面している。両市の商工会議所が行っている活性化対策の内容は、商店街を回遊したくなる魅力づくりの向上対策、高齢者向けの交通システムの事業化、まちなか居住の整備、地域内雇用の創出として空き店舗の有効活用、観光イベントの支援など、

市街地の衰退に歯止めを掛けるため、市民の意見や要望を取り入れ、先進的なアイデアや補助事業の導入により中心市街地地域の特質や独自性を活かし、種々の活性化対策事業で中心街の再生やまちなか移住促進、イベントの開催による賑わい創出など行政や商工会議所が懸命に努力している姿が散見された。

土幌町商工会は現在まで多数の活性化対策関連事業を実施してきたが、計画・検討中の事業を含め積極的な取り組みが不可欠であると考えられる。現在実施中の地域資源を活用した農商工連携事業や人材育成、食を核とした地域活性化支援事業など多くの事業推進にあたっては内容が多岐にわたり、商工会の事務職員は人員不足の傾向にある。起業化の支援やサポートする人材育成など継続的で安定した運営には行政の支援が必要と思われる。

農業を基幹産業とする本町商工会の活性化対策は地産地消は元より、地域活性化支援事業などで地場産品の研究開発から販売促進までの事業展開を視野に入れた将来像のあり方を商工会員の積極的な取り組みが望まれる。

今後も事業の実施にあたっては、一般町民に理解を求めるなど、さらには行政が一体となって今後のあるべき姿を検討することが必要と考えられる。